

海外安全対策情報（平成29年度第2四半期）

1 アグン山の警戒情報

9月22日にバリ島アグン山の警戒レベルが最高のレベル4（危険 AWAS）へ引き上げられ、山頂から12km圏内の区域は立ち入りが禁止され、その周辺の地区では現地警察等による住民避難が行われています。当館からは、アグン山周辺への渡航は中止または延期するよう注意情報を発出しています。

一方、バリ島内のその他の地域（クタ、スミニャック、ヌサドゥア、ウブドなどの日本人が観光で訪れる地域）については特に注意情報は出しておらず通常どおりの状況です。

バリ州政府は、万一アグン山が噴火した場合に備えて、滞在外国人に向けた各種情報提供や空港閉鎖時の代替移動手段などを計画している由ですが、今後の火山の活動状況を含めて、引き続き、最新の関連情報の入手に努めてください。

2 社会・治安情勢

（1）テロ関連動向（インドネシア国内情勢）

9月11日、西ヌサトゥンガラ州ビマで警察官2名が何者かに銃撃され負傷する事件が発生、また、西ジャワ州ではテロ容疑者が逮捕される等、インドネシア警察はテロの疑いのある動きに対して厳重な警戒態勢を敷いています。

現時点においては、当地では具体的なテロの情報はありませんが、引き続き最新の治安情勢等の関連情報を入手し、日頃から危機管理意識を高く持つよう努め、特にテロの標的となりやすい場所（政府・警察関係施設、宗教関連施設、ナイトクラブなど多くの欧米人が集まる場所、ショッピングモール等不特定多数が集まる場所等）を訪れる際は、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

（2）デング熱

バリ島内ではデング熱が依然流行しており、引き続き注意が必要です。デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが最善の予防方法ですので、防蚊対策を徹底し感染の予防に努めてください。なお、仮にデング熱が疑われる症状が発生した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けるようにしてください。

（3）麻薬・薬物への注意

警察は、引き続き薬物犯罪の摘発を強化しています。バリにおいてもナイトクラブに対する強制捜査が実施され薬物所持者が検挙される等警察は薬物犯罪の摘発を推進しています。薬物には絶対に関与しないようにして下さい。また、薬物が使用されているような危険な場所には近寄らないようにしてください。

3 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪傾向

観光客が多く集まるクタ・レギャン地区を中心に、外国人旅行者を狙った「ひったくり」「集団スリ」といった盗難被害が引き続き発生しています。特に、深夜・早朝時間帯には、レギャン通り（爆弾テロ追悼モニュメント近く）のナイトクラブからホテルへ帰る旅行者（グループ、カップル、男女を問わず）が、徒歩で通行中にひったくりの被害に遭ったり、集団の犯人に取り囲まれて話をしている隙にスリの被害に遭うケースが継続して発生しています。

また、上記エリア以外でもバイク使用の犯人によるひったくりが頻発していますので、このような被害に遭わないためにも、所持品の管理に注意し、徒歩での移動の場合には周囲の状況に十分警戒してください。

なお、今四半期は当地到着後に旅券を紛失する事案が頻発しました。特に当地空港に到着した後、入国審査を通過後や税関申告終了後、何らかの拍子で旅券を落としてしまったり、置き忘れてしまったりする事例が多く報告されました。空港での入国手続きを終えた後は一度旅券の存在を確認してください。また、当地滞在中、旅券はホテルのセーフティーボックス等の安全な場所に保管し、外出の際はコピーを持ち歩くことをおすすめします。

(2) 邦人被害事案

邦人に対する一般犯罪の事例については、月ごとに安全対策情報として総領事館ホームページに掲載しています。

4 テロ・爆弾事件発生状況

当館館内においてテロ・爆弾事件は発生していません。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の誘拐・脅迫事件は発生していません。

6 対日感情

対日感情は基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

7 日本企業の安全に関わる諸問題

日系企業の安全に関わる問題は認知していません。

以上